
世界をわたる幼女

NEW GENERATION

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界をわたる幼女

【Zコード】

Z6563Y

【作者名】

NEW GENERATION

【あらすじ】

現実世界で事故に会い、死んでしまう主人公（男）。しかし目を覚ますと目の前に自称下つ端神様という幼女が！その神様のミスにより死んでしまった主人公は神様と融合することにより消滅を免れる。そして下つ端神様としてお偉いさん方を楽しませるという無茶ぶりをうけ様々な世界に幼女（中身は男）として物語に介入してゆく

みたいな感じ？ですかね。

プロローグ

やあ、初めまして。

俺の名前は高野京耶。高校三年生だ。

いや、だった……って言つのか？

まあ、そんなことはどうでもいいんだ。

君たちは天国や神様、幽霊、挙げ句の果てには転生とか、そういうことを信じているか？

え？俺はどうなのかって？

俺は信じない。だって

「 なので、あなたには私と融合することによりあなたがいた世界より生まれた、別の世界へ……って、聞いてますか！？」

信じたくないから。

拝啓

母さん、親父、天国のおじこちゃんおばあちゃん…。

俺」と高野京耶は死んでしまいました。

親父……あの世はあったよ……。ここにあった……。

しかもね、なんか見知らぬ幼女から私と融合してくださいとか、責任をとらせてくれ下さいとか言われるし……

俺なんか悪い」としたつー？

いじめだぜこれ！？目が覚めたら訳わからんといつれで
て謎の幼女から

「あなたは死にました」

とか言われた後に

「私と融合してくれませんか？」

とか、馬鹿じやねえの！！

笑えねえよーー！

「む。馬鹿とは失礼ですね。これでも神様ですよ？下端ですが」

黙れ幼女。俺のストライクゾーンど真ん中だとしても言つていいく
と悪いことがあるんだ！

そして俺の心を読むな！

「よ、幼女！？……いえ、そんな事いつてる場合じやない…。落
ち着け私」

ぬ。幼女（神）が両手を胸に当てて深呼吸している。なかなか可愛
いじやないか。

「…………」

みづじょは れゅしき じとめを つかつた！

あわひやは もだえ くるしん だ！

「それで！私と融合しないとあなたが消滅しちゃうんです！あなた
が死んでしまったのは私が原因です。なので私は責任をとらなきや
いけないので。分かりましたか？」

いや、分かりません。

「では融合しましょう。私からするので動かないでくださいね?」

「ふゅーじょんつ！」

ちよつ・まつ

いいいいやああああ！！

プロローグ続（前書き）

プロローグが分かれてしまつた…。

き、氣にしない氣にしない。

そ、それではどうも。

プロローグ続

「…………う……」

どうやら俺は眠っていたようだ。
目を開きまわりを見渡してみると変わらない、見慣れた自分
の部屋である。

夢……か。

それにしてはリアルだつたな。
リアルに悪夢だった。いや、ある意味悪夢じゃないけど。

そんな悪夢？を見たせいからか、汗で服が湿つていて気持ち悪いこ
とこの上ない。あとで風呂でも入るか。

それにしても、まったく…幼女が融合してくれ…とは。

…………末期だな……。

な、なにがとは言わないぜ？それにこの目からではのは鼻血の一

種だからなつ！？

…とりあえずいろいろ覚ますために顔でも洗いにいくとするか。
そう思い、洗面所へ行こうと立ち上がる。

「…………？」

なんだ？ やけにいつもより視線が低い気がする…。 それにこのなんとも言えない違和感が俺の不安をかきたてる。

「いや……まさかな…」

さらにはどこからか素敵なロリ、ヴォイスも聞こえてる。

そんな素敵ロリヴォイスはスルーし、ある所へと手を伸ばす。

しかし目的のモノは見あたりず、掴もうと握った手は虚しく空をきつた。

「……」

全身から冷や汗がダラダラとでてくる。
ダッシュで洗面所へとむかい、鏡で自分の姿を確認。

俺の希望を碎くように、そこにはあの夢に出てきた幼女（神）
と瓜二つな美幼女だった。

なにこの幼女かわいい。毎朝僕に死者の目覚めをしてください！
HA HA HA！

そんな馬鹿なああああああ！！

いや、また落ち着け。こんな時こそ深呼吸だ。

スー、ハー、スー

「お、田が覚めたか」

どこからかそんな声が聞こえたと思つたが、田の前に変なオッサンが現れた。

「ブツーー？」

「なんだ失礼な奴だな。いきなり吹き出しあがつて」

「てめーも失礼だろ！？」

「俺んちだぞ！不法侵入で訴えるぞーー？」

「俺んち？おかしな事を言つもんだな。説明を受けなかつたのか？」

なんだなにが言いたいんだ田の前のオッサンはー。

「ここはお前のもつとも安心できる場所を映し出す場所だ。まあそういう意味では一応ここはお前の家だな」

「有栖から言われたはずだぞ。融合した後まことにやつてくる

と。あ、ちなみに有栖って俺の部下でお前と融合した奴の名前な

「そんな…」

あれは夢じゃなかつた…？それじゃ俺は本当に死んじまつたつてことかよ…。

…まあ、しょうがないか…。

「俺は…これからどうなるんだ…？」

「これからは俺の部下として神界で働いてもらひ。と、言いたいところなんだが実は上から直々に命があつてな。「いろんな世界へ言つて物語に介入し、我らを楽しませろ」だつてよ。」

そんなんでいいのか神界…。

上の奴に会つてみたいな。

「今からとばすから。世界、能力、+ をクジで決めるや。わあ、
引け」

どつかり出したか謎だけど気にしてもどうせ意味ないので無視。
えつ…と…？

世界が>真・恋姫十夢想<、能力が>射撃チート<、+ が>スキル・成長抑制A + <……。

え、なにこれ。

「決まつたか。それじゃいくぞ」

「は？」
「

「セイイシー！」

「ぎゃあああああああ……！」

ああ、神様つて人の話聞かないのか……などと思いながら俺の意識は闇へと沈んでいった……。

プロローグ続（後書き）

じつじよい。

転生にするかそのままもってくか…

いまだに悩む。

主人公設定（前書き）

こんにちわ。

呼んでくださる方、ありがとうございます。

ネタがあまりないです。

強いてあげるなら来週から期末テストですね。どうでもいいですが。

それではどうぞ。

主人公設定

たかのきょうや
高野京耶

性別：女

恋姫世界での名は高京字はない。
真名は利花。

本編の主人公。

前世はただのオタク。性格は結構お調子者でアホ。たまにすごい。プロローグでは周りが酷かつたため常識人ぽかつたが、実質こいつもアホ。神様のミスにより事故にあり存在が消滅しかけたが、幼女（神）と融合し、免れる。

幼女（神）と融合したことにより体は幼女、しかし中身はそのまま。さらにはなんとなく神にもなつてたりする。ちなみに本人は知らない。

上の方々に無茶ぶりをうけて恋姫世界へ転生。

生まれて数ヶ月で森に捨てられるが恋姫世界の超人的な肉体 + 前世の記憶 + 作者の都合 + 主人公補正 + 原作知識により、すぐすくと元気な幼女に育つ。後略。

筋力 D

耐久 -

魔力（気） A

俊敏 A

運 D

スキル

気配操作 : C

氣配遮断の上位スキル。もちろん遮断もできる
後は割愛。

気 : A

気を使える
後は（ ↘ y

射撃特化 : A +

武の才能が遠距離に特化する。基本的に射撃系統なら大抵できるようになるがその分、耐久などが低下する。A クラスまでいくと弱いを通り越して残念な域になる。どのくらいかというと民間人のパンチで骨何本かもっていかれ、武将の場合なんとか死なないぐらい。ちなみに物理法則を無視する。例えば突くために趙雲の槍（名前忘れた。竜牙？竜胆？）を使うと、重さに耐えきれず手首が折れるが、投げる為に同じ槍を使うとランサーもびっくりな速度で投げる。

え?なぜかつて?チートだからだよ。

矢除けの加護：B

割愛。ランサーとかに聞いて。

1・高京、捨てられた。（前書き）

こんにちば。

前回の設定で成長抑制を入れ忘れてました。

まあ簡単にいふと不老で10～12歳くらいで成長が止まります。ちなみに不死ではないので再生とかもしませんし、普通に死にます。

今回はですねえ、最初コメティを書くところとして堅苦しくなく、軽く、地の文を少なくしようと意気込んでいたのですが失敗しました。すいません。

それでもいいところはまだつぶや。 1

1・高京、捨てられた。

や、またあつたな。

高野京耶だぜ。

あの後俺は無事恋姫世界に誕生した。

黒歴史が大量に生まれた初めの2ヶ月。

新たな両親に戸惑つたり、驚異的な早さで歩いたり、喋つたりできるようになつてもう3ヶ月……。

そして、雪が溶け、まだ肌寒いがゆっくりと街が春の面影を帯びてきた頃……高野京耶あらためまして高京、真名を利花と申しますこの私は……

捨てられました。

[冗談とか某ハツスルおじいちゃんの修行(笑)とかじゃなく、真面目に]。

縁。

圧倒的なまでもの縁色が俺を包んでいる。

そこには、あたり一面見渡す限り、木で埋め尽くされていた。

その中に、ほかのものとはあきらかに違ひ、一際大きい木を見つけた。

それはどうしたことなく神秘的で、一つの意志のようだった。ただ、肅然として佇んでいた。

まるで、この樹は意志をも持つてゐるのだと錯覚するほどだ。この場所だけが、森から切り離されたようだと感じた。

見るもの全て、自らの世界へ引きずり込むような、そんなチカラがこの樹に宿っていた。

だから、なのだろうか。俺の心はかつてないほど静かに、そして

神への純粋な殺意に燃えていた。

「……」

この森に捨てられた直後、あのオッサン（ 神 ）からテレパシー的

なものがきた。

その時こうこうひとと説明を受けたんだ。

曰わく、「お前が捨てられたのは私がそう設[定]したから」と。
曰わく、「射撃の技術はあくまでも才能がチートだから三分で鍛え
る」と。

曰わく、「今のお前超かわいい。ひょつと撫でちゃう」と。

それに対する俺の返事はこうだ。

「え？死んでください。つか、俺が殺す。今すぐ殺す」

そしたらアイツ、一方的に切りやがった。

.....

上等じゃねえか……！

絶対エいつか殺す……！

そのためにもまず体を鍛えないといけない。

それに射撃系統でいろいろ確かめたいこともあるし。

あ、ちなみに氣は既に使いました。チートってすごい。

わあ これからいそがしくなるわー！

打倒！オッサン！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6563y/>

世界をわたる幼女

2011年11月27日12時51分発行